

## 日本海沿岸東北自動車道の整備促進に関する決議

日本海沿岸東北自動車道は、日本海側を縦貫する国土軸を形成する重要な路線であり、北陸、関越自動車道、東北縦貫自動車道と連携し、広域交流の促進はもとより、地域の個性を活かした新しい文化の創造と企業誘致、観光産業の振興など地域経済の発展に大きく寄与するものである。

当路線は並行する一般国道7号等の交通混雑の緩和や、さらには山形県庄内地域と新潟都市圏を含めた新潟県北地域との経済交流等による地域活性化を図る重要な路線であるとともに、新潟・山形県境地域の救命救急医療や災害時のライフラインとして重要な役割を担う「命の道」でもある。

これまで従来の有料道路方式で整備が進められた新潟中央JCT～荒川胎内ICまでに引き続き、新直轄方式で整備を進めてきた朝日まほろばICまでが平成23年3月に供用開始され、残る未整備区間であった新潟県村上市と山形県鶴岡市との間の新潟・山形県境区間である朝日まほろばIC～あつみ温泉ICまでの40.8kmについては、平成25年5月の事業化の決定により、悲願に向けて大きく前進したところである。

高速道路はネットワーク化されて始めて最大の効果を発揮するものであり、その整備に当たっては、短期的な経済効率性や採算性の視点からだけでなく、強靱な国づくり、豊かな地域づくりに果たす役割・必要性などを十分に考慮し、国として、国土の整備という視野に立って早期に進めていくことが重要である。

また、東日本大震災において、港湾をはじめとする社会資本整備が太平洋側に偏り、東北地方における災害時のリスク分散や代替機能の確保が不十分であることが顕在化した。そのため、今後は日本海側の物流機能の重要性を改めて認識し、バランスの取れた社会資本の整備を早急に進めることが必要である。

日本海側と太平洋側の国土軸を均等に整備することにより、両国土軸の相互補完体制が確立し、災害に強い国土の形成、更には強固な経済基盤が構築されるものである。

さらには、日本海沿岸東北自動車道の完成により東北地方と関西圏を最短で結ぶルートとして、日本海側に東日本の新たな縦の高速・国土軸が完成することとなり、国民の安全・安心、物流・観光を始めとした経済交流が飛躍的に向上することとなる。

このことから、村上市議会は、ここに、日本海沿岸東北自動車道の早期建設にかける地域住民の熱意を改めて表明し、下記のことを強く要望する。

### 記

- 1 新潟・山形県境部の朝日温海道路（朝日まほろばIC～あつみ温泉IC間）においては、積極的に予算を投入し、早期に完成を図ること
- 2 朝日温海道路（朝日まほろばIC～あつみ温泉IC間）をはじめ、地域が真に必要な道路整備を計画的に推進するための予算を持続的かつ安定的に確保すると共に、復旧・復興道路の整備にあたっては、通常の公共事業とは別枠での予算を確保すること

- 3 国の公共事業関係費を平成21年度以前の7～8兆円規模に回復させ、長期的・安定的に確保すること  
また、平成27年度当初予算における公共事業関係費の大幅な増額を図ること

以上決議する。

平成26年6月25日

新潟県村上市議会

